

# スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター自立支援事業所 2017年8月29日発行 第77号

居場所づくり勉強会 第49弾 部落・在日・障害者差別問題

## 東九条と崇仁のいま・むかし

話し手 山本崇記（静岡大学准教授）、矢吹文敏、金順喜

東九条とお隣の崇仁は、在日や部落の人々が多く暮らしてきた地域です。JCIL が東九条に移ってきた 1990 年代以降、この地域の方々とながら、障害者も大勢暮らすようになりました。

京都駅南側の再開発が進み、新築の建物が増えた現在、被差別の歴史などは、特に表通りからは想像さえもしにくくなっています。それでもいまだに、東九条とお隣の崇仁地区のことを、怖いという人がいるのも事実です。それは、昔のままのイメージを持ち続けていたり、事実と異なるうわさをそのまま信じた誤解によるものではないでしょうか。しかし、この地区で暮らしたり働いたりしている私たちも、これらの地区の方々がどんな風に生きてきたのか、実はよく知らない部分も多いと思います。

そこで、今回の勉強会では、JCIL の事務所があり、みなさんが暮らしたり働いたりしている東九条と崇仁の歴史と現在について、学びたいと思います。

10月14日(土)  
14:30-17:00

14時開場(参加費無料)

京都市地域・多文化交流ネットワークセンター



(担当: 岡山・橋口)

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当: 岡山・橋口

TEL: 075-682-7950 E-mail: jcil-kyoto@jcil.jp URL: <http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

## 相模原殺傷事件から1年

### 事件をうんだ「障害者はいらない」という考え方（優生思想）について考える に参加して

段原 克彦

8月のはじめの暑い陽射しの昼下がり、大谷いづみさんを講師に招き勉強会「相模原殺傷事件から1年—事件をうんだ「障害者はいらない」という考え方（優生思想）」について考える」が開かれました。

大谷さんはポリオの障害をお持ちで、高校の教員を経て今は大学で研究をされている方です。勉強会では「安楽死・尊厳死」が社会／世界に浸透していく思想的経過や、ナチスドイツ下での障害者の大虐殺の詳細など広範な内容に触れながら、いかにして社会において、歴史において、「障害者」が「役に立たない存在」として「死」に促され、「死」に追いやられてきたかを、溢れ出るような思いを静かな言葉にのせて語っていただきました。

大谷さんが語られた言葉を思い出しながら、重ねながら、少し、考えます。



今の社会において、さまざまな差別的・暴力的な線引きがなされていると、まずは思います。ひとつに「障害者」／「健常者」と線が引かれている。無数にあるその線引きはさまざまな歴史的な背景の上に成り立っているもの、と思われそうですが、そこには社会にとって「無用の存在」「役に立たない存在」としての蔑みの眼差しと多く、重なり合っています。

線引きは暴力的になされたものであるがゆえに、その適用範囲、現れる差別的事象は可能性としてはどこまでも広がっていく芽を孕んでいます。時に一線を越えうる。大谷さんが伝えてくださったように、ナチスドイツ下で「精神障害者」を対象とした虐殺計画が、「身体障害者」「知的障害者」「アルコール依存症者」、そして「社会不適合者」へと対象を拡大していったことが示すように。

引き受けた痛みよりもはるかに自らの加害性を見つめ、それでも歩み出そうとする大谷さんの言葉に、私は励ましを感じるとともに苦しい思いがありました。自分を考えざるをえなくさせるものでした。線引きについて、「誰か」と共に生きるということについて、日々の生活を振り返れば、ふと眼差しを自分に向けたなら、自分の加害性や差別性の前に言葉をしまいこんでしまいそうな、歩みが止まってしまいそうな、どこにも行けなくなるような、そんな思いに捕らわれる時間があります。

それでも私は今、自らをまなざそうとする思いを無理やりにも断ち切って「外」を見て、そして、どうかこう言ってみたいと思うのです。

「誰か」の「死」を前提に成り立つ社会などあってはならない。そして、生きていれば学ぶことはきっとたくさんあり、できることもきっとたくさんある、と。



日本自立生活センターの設立当初より活動されてきた宮川泰三氏が  
8月10日にお亡くなりになりました。  
故人のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

1988年7月、真夏の暑い日に、舞鶴の施設から、当時白梅町にあったJCIL事務所に宮川泰三氏は、故長橋榮一前JCIL代表を訪ねてきました。「施設を出たい。」と…

当時の社会状況の中で、重度の障害がある人たちの地域生活などとても考えられない時代でした。宮川さんは、「自由のない施設をでたい。」「酒が飲みたい。」「タバコが吸いたい。」そう何度も何度も訴えました。3回目にJCIL事務所を訪ねたとき、そのまま舞鶴の施設へは戻らず、事務所に居座ってしまいました。それから、長橋前代表をはじめ、矢吹現理事長、そしてたくさんの学生さん、介助者など多くの人を巻き込みながらの地域での自立生活を形づくっていきました。宮川さんから、始まった重度障害者の自立生活、地域移行です。

その後、宮川さんは、私たち重度障害者にとって、地域で暮らすということは、交通のことも考えていかななくてはいけない。と「パーフェクトバスを走らせる会」を設立させ、公共交通機関を障害のある人たちもちゃんと、利用できるようにいろいろと、交渉を続けてきました。その結果1991年12月に京都市バスに第1号のリフト付きバスが走りだしました。

宮川さんから始まった「地域移行」あれから、30年近い年月の中で、地域で暮らせる重度障害者の仲間たち増えてきています。バスも地下鉄も、それなりに、利用できるようにはなってきました。

その宮川泰三氏、今年、10月に還暦を迎えるところでしたが…8月10日午前4時、亡くなりました。「食道がん」を患っており、入院中でしたが、8月半ばに退院をする予定で、いろいろ準備をしていた。矢先のことでした。宮川さんは、車いすの背中に、看板を背負い、その時々、社会へのアピールをされていました。また、とてもチャーミングな笑顔をされます。そのこともあり、宮川さんのことを慕う人たちがほんとうにたくさんおられます。11日12日、通夜、告別式は、「友人葬」の形をとり、たくさんの人が訪れていました。宮川さん、これまでほんとうにありがとうございました。



# 納涼祭 2017.8.21



焼きとり美味でした



夏の終わりの花火



みんなでワイワイ



宮川さんも焼きそば



蝶ネクタイ似合うホスト役

## こころとからだをすっきり！ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふう動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。もちろん腰痛予防にもいいですよ！ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。

- ★ヨ ガ : 全身をうごかすヨガ
- 日 時 : 9月11日(月)  
17:00-18:15 (OPEN16:45)
- 場 所 : 油小路事務所2F
- 持ち物 : 動きやすい服装・タオル・飲み物
- 参加費 : 無料



\* このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。